

横浜市感染症発生動向調査報告 4月

《今月のトピックス》

- インフルエンザが昨シーズンより5週遅く、警報解除基準値(定点あたり10.00)を下回りました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 流行性角結膜炎の報告が例年より多くなっています。

全数把握の対象

【4月期に報告された全数把握疾患】

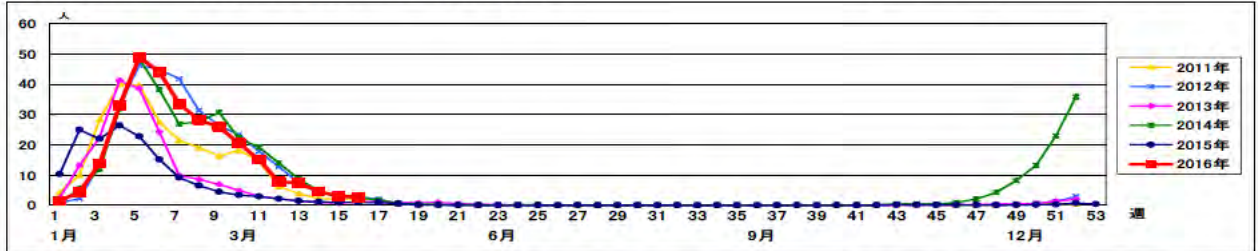
腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	3件	水痘(入院例に限る)	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	梅毒	9件
急性脳炎	3件	風しん	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:1件のO111 VT1の報告があり、海外(フィリピン)での経口感染が推定されています。
- 2 E型肝炎:1件の報告がありましたが、感染経路等不明でした。
- 3 デング熱:1件の報告があり、海外(パラグアイ)での感染が推定されています。
- 4 レジオネラ症:5件の肺炎型の報告があり、うち2件は神奈川県の水系感染と推定、1件は静岡県の水系感染と推定、2件は神奈川県で感染経路等不明でした。
- 5 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症3件の報告があり、1件は海外(中国(上海))での経口感染、もう1件は国内での経口感染が推定され、さらにもう1件は神奈川県または海外(ベトナムまたは韓国)での経口感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:2件の報告があり、神奈川県での手術部位感染、1件は感染経路、感染地域不明です。
- 7 急性脳炎:2件の幼児、1件の児童の報告がありました。いずれも病原体不明です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:2件の高齢者の報告は国内での創傷感染が推定され、もう1件の成人例は感染経路等不明でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症:成人例1件の報告がありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 10 侵襲性髄膜炎菌感染症:高齢者の報告が1件ありました。感染経路は不明で、共同生活ではありませんでした。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児は1件の報告があり、4回のワクチン接種歴が確認されました。成人例は2件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。高齢者は9件の報告があり、うち1件は1回のワクチン接種が確認され、もう8件はワクチン接種歴が確認できませんでした。
- 12 水痘(入院例に限る):成人例の報告が2件、高齢者の報告が1件あり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 13 梅毒:9件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期2件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、無症状病原体保有者3件)があり、うち8件が国内感染例で、1件は感染地域不明でした。感染経路はいずれも異性間の性的接触でした。
- 14 風しん:40歳代男女の検査診断例の報告が1件ずつありました。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

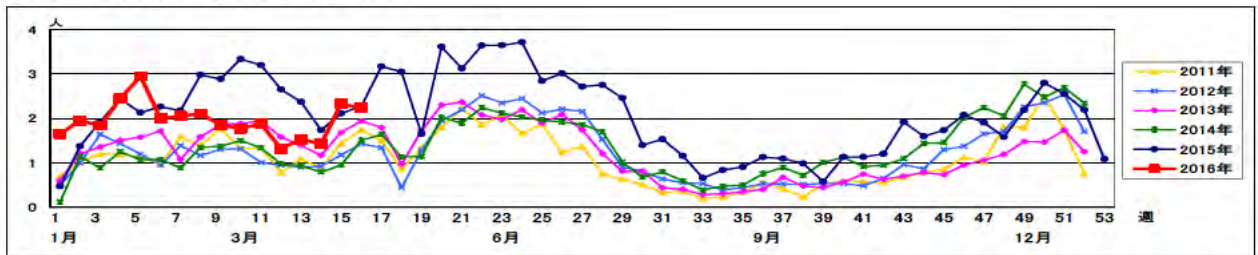
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第12週	3月21日～3月27日
第13週	3月28日～4月 3日
第14週	4月 4日～4月10日
第15週	4月11日～4月17日
第16週	4月18日～4月24日

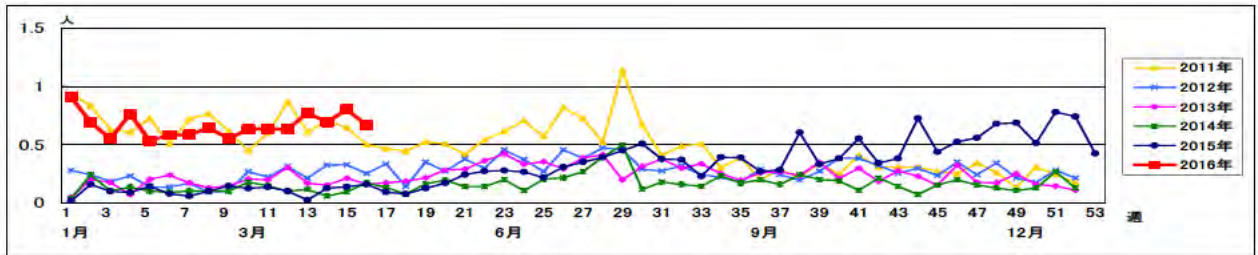
- 1 インフルエンザ:第12週(3月21日～27日)の定点あたりの患者報告数が横浜市全体で7.76となり、昨シーズンより5週遅く警報解除基準値(定点あたり10.00)を下回りました。第12週、第13週(3月28日～4月3日)の区別では10.00を上回っている区もありましたが、第14週(4月4日～10日)ではすべての区で10.00を下回りました。



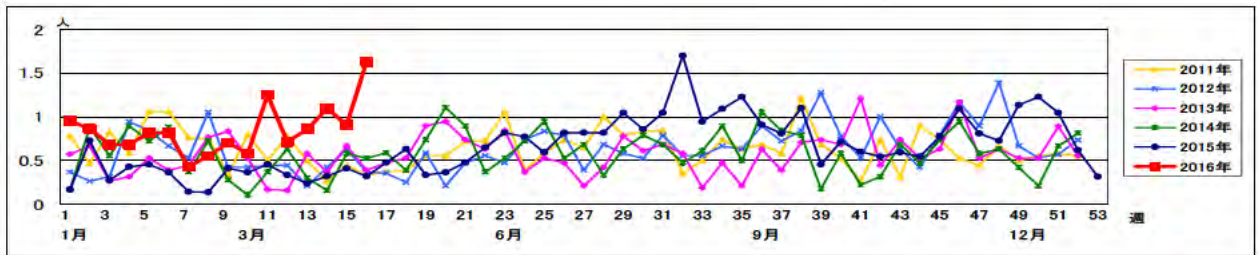
- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第14週までは減少傾向でしたが、第15週で2.32、第16週で2.24と例年に比べて報告が多くなっています。



- 3 流行性耳下腺炎:第16週は市全体で定点あたり0.67と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



- 4 流行性角結膜炎:第16週で1.63と例年に比べて報告が多くなっています。



- 5 性感染症:3月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が9件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第12週0.75、第13週0.00、第14週0.25、第15週0.00、第16週1.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第12週0.50、第13週0.00、第14週1.00、第15週0.00、第16週0.50と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報:3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点44件、内科定点15件、眼科定点1件、基幹定点16件で、定点外医療機関からは4件でした。

5月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株33例と遺伝子20例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(4月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ 脳 症
インフルエンザ AH1N1pdm09型				6			
インフルエンザ AH3N2型				2			
インフルエンザ B型ビクトリア系統		2		9	1		
インフルエンザ B型山形系統			1	11 1			1
パラインフルエンザ 1型			1				
パラインフルエンザ 2型		1					
パラインフルエンザ 3型		1					
RS		1		1	1		
ヒトコロナ*2			2				
ヒトメタニューモ			3				
ライノ		2	3				
ノロ						2	
ロタ						1	
合計		2 5	1 9	28 2	1 1	3	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

4月の感染性胃腸炎は、基幹定点から6件で、サルモネラ(*S. Chester*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から5件、その他からが16件でした。定点以外医療機関のA群溶血性レンサ球菌(T型別不能)は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(4月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月		4月			2016年1月~4月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	6	0	0	24	9
赤痢菌							1	
腸管出血性大腸菌						1	1	
サルモネラ				1		6	1	
カンピロバクター							1	
不検出			0	5	0	0	17	5

その他の感染症

菌種名	検査年月		4月			2016年1月~4月			
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
	件数		4	5	16	14	26	164	
A群溶血性レンサ球菌	T4					1			
	T6		1			1			
	T12		2			2			
	型別不能		1		1	8		1	
B群溶血性レンサ球菌							1		
G群溶血性レンサ球菌						2	1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌				1		4			
レジオネラ属菌							1		
インフルエンザ菌							1		
肺炎球菌				2	1		5	32	
結核菌								11	102
百日咳菌							1		
その他				1	1		6	10	
不検出			0	1	2	2	8	15	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】